

堤防危険区域

昭和28年9月台風第13号
の2倍の降雨（約
500mm）により破堤の危
険性が考えられる区間
（淀川の場合）



人家連担区域

堤防背後に家屋が近接
かつ連担している区間
(淀川の場合)



対策箇所の優先度

- 堤脚人家連担の有無
- 500mm(2倍)の降雨で破堤の危険性有無
- 破堤要因別(越水/洗掘/浸透)

堤脚人家	越水/浸透/洗掘破堤	
	500mm以下	500mm超
連担あり	A	B
連担なし	B	C

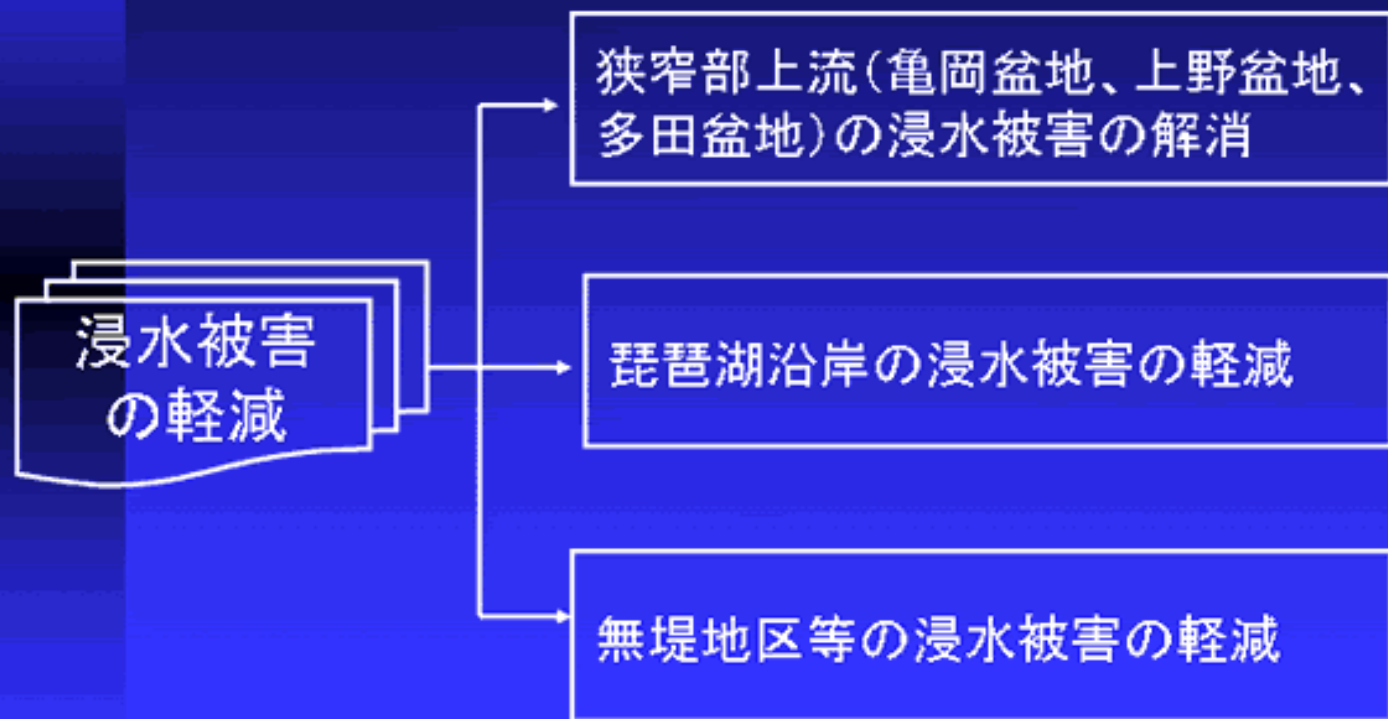
対策の実施にあたっては、被害の分散化、上下流
バランス、投資効率を検討

応急的堤防強化区間

- 500mm (2倍) の降雨で破堤の危険性が考えらる区間
- 堤脚に人家が連担している区間



浸水被害の軽減



狭窄部上流の浸水被害の解消

○保津峡、岩倉橋、銀橋は下流堤防の破堤危険性を増大させるため、当面開削を実施しない



既往最大規模の浸水被害の解消を図る

狭窄部上流の浸水被害の解消

<保津峡上流(亀岡盆地)>

- 日吉ダムの治水機能強化検討

<岩倉峡上流(上野盆地)>

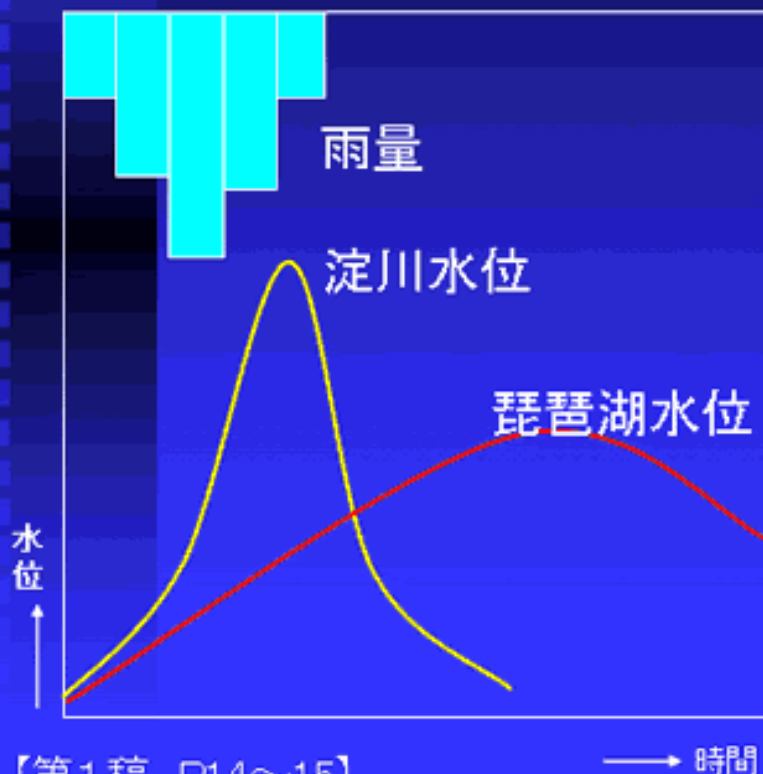
- 上野遊水地事業の継続実施
- 流域内貯留施設等の検討

<銀橋狭窄部上流(多田盆地)>

- 一庫ダムの治水機能強化検討

琵琶湖水位の特徴

【琵琶湖と淀川の洪水時差】



雨量

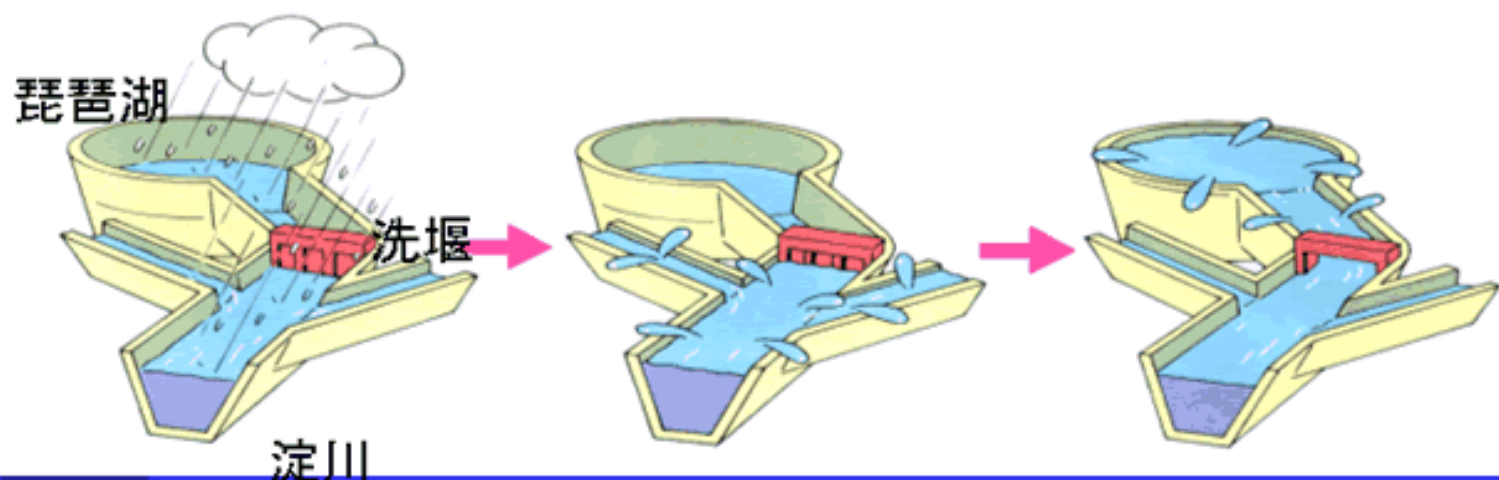
↓

琵琶湖の水位上昇はゆるやかです。

下流淀川の水位がピークを過ぎ、減り始めてから琵琶湖の水位がピークとなります。

瀬田川洗堰操作について(洪水時)

【琵琶湖と淀川の洪水時差】



大雨で淀川の水位が上昇し始めますが、琵琶湖ではまだ水位の上昇はありません。

【第1稿 P14~15】

淀川の流量がピークになっても、琵琶湖の水位はさほど上昇していないので、洗堰からは放流していません。

淀川の流量が減り始める頃、琵琶湖の水位は上昇を続けているので、洗堰を全開して湖の水位を下げます。 **110**

琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減

琵琶湖後期放流に対応するため以下の対策を実施

- 瀬田川下流流下能力の確保(洗堰下流掘削、鹿跳溪谷地区検討)
- 天ヶ瀬ダムの放流能力を増強するため、既存施設の改造等を含めて再開発の見直しを検討
- 塔の島地区において、天ヶ瀬ダム再開発見直しの検討結果を踏まえた河道掘削を実施
- 新隠元橋架橋(京都府と一体施行)に合わせた引堤防を継続実施

無堤築対策(川西・池田地区)



高潮対策

- 防潮扉の操作が必要である阪神西大阪線
 - ・関係機関と調整中
 - ・橋梁取り付け部の整備と周辺の土地利用との調整に多大な時間とコストが必要
 - ・堤防強化との優先度を十分に判断し、実施時期検討

高潮対策

■防潮扉の操作

